

1 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A

a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。

b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。

ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されています。

c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。

d **解答通り**という条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B

a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。

b 加点要素でも減点要素でもない部分もあります。その部分は加点も減点もしません。

C

次に該当するものは、答案の形式上の不備として、**一箇所につき1点の減点要素**とします。

a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。

b 脱字。

c 文末の句点の脱落。

※字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。

d その他不適切と判断せざるをえない箇所。

e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。

たとえば「:とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。

また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

※ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。

また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

D

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。

b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。

c 答案の文章が最後まで完結していないもの。

d 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたものの。

e 字数指定のある設問で、制限字数の半分に満たない場合は「字数不足」と記し、全体×として、0点とします。

この原則と異なる採点をする場合は、採点基準で指示します。

□ 現代文 (90点)

問一 各3点×4＝12点

- a 過 b 眼 c 容 d 魔

問二 5点×2＝10点

- ① 先入観や偏見を持たずに
② 前後のつながりがない

各加点要素の加点の条件

- ① 「先入観」「偏見」「予断」がない(を持たない)という意味が読み取れば○5点。
× 「成心」には「もくろみ・下心」という意味もあるが、この文脈には不可。
② 「脈絡」は「物事の前後のつながり・筋道」という意味。それが無いということが説明できていれば○5点。
「とりとめのない」という解答例があったがこれは駄目。「まとまりがない」も駄目。意味が異なる。

問三 5点

暗喩 (隠喩)

- 漢字 (二字) でのいう指定はないので「メタファー」は5点。
○ 「暗 (隠) 喩法」はもちろん可○。
○ 「体言止め」も可○。
△ 単に「比喩」は△2点。

問四 (15点)

A ○2点

B ○4点

C ○2点

D ○4点

(模範解答例) 現場にいなかった人間が 思い出と反省で作り上げた 悲劇ふうのイメージと、思いがけない
E ○3点

事故と向き合いながらもひたすら生きのびようとしていた人間の現実体験という違い。

各加点要素の加点の条件

- * A・B・Cが「ジャーナリストイックな熱っぽいイメージ」の説明、D・Eが事故に遭遇した人間についての説明。

A 「現場にいなかった人間が」(2点)

※本文の「現場に居合わせなかった人が悲しみを胸に事実の断片らしきものをもとに織り上げたイメージ」を踏まえていること。

B 「思い出と反省で作り上げた」(4点)

※本文の「あとになって思い出され反省されたイメージ、」から引き出された説明。

△Aで引いた「事実の断片らしきものをもとに織り上げたイメージ」をそのまま使っている場合、また「想像力で作り上げた」といった説明をしている場合は△2点とする。

△「思い出」「反省」のいずれか一つだけの場合も△2点とする。

C 「悲劇ふうのイメージ」(2点)

○「ジャーナリスティックな熱っぽいイメージ」が「悲劇ふうの(的な)イメージ」である。同等の説明と判断できれば2点。

※原則として「悲劇」という語はA・B・Cの側に使われていなければならぬ。現場にいた人間は自分が「悲劇」の中にいるとは思っていないというのが本文の説明である。

D 「思いがけない事故と向き合いながら」(4点)

※本文に「予期せぬ知覚」(アラン)「思いがけぬ事態の出現」とある。「事故」は「事態」や「出来事」「現実」などでもよい。突然出現した事態と向き合っていた、というニュアンスが読み取れれば○4点。

△「思いがけない・予期せぬ」といった説明がない場合、また説明が曖昧な場合は△2点。

E 「ひたすら生きのびようとしていた人間の現実体験」(3点)

※本文に「人びとの現実の知覚はなんとか事態を的確に把握しようと努め、人びとの現実の行動はなんとか生きのびる道を探していたにちがいない」とあり、その後半に基づいた説明。

※設問は「現場に居合わせた人の体験」についての説明を求めているのだから、「知覚」よりも「現実の行動」について説明する。「生きのびる道を探していた」という説明があれば○3点。説明が曖昧な場合は△1点。

問五 (15点)

A ○3点

B ○6点

(模範解答例) 沈没事故という異常な状況下にいた人びとは、悲しみや絶望に打ちひしがれることもなく、

C ○6点

事態を的確に把握しようと努めていただけだということ。

各加点要素の加点の条件

A 「沈没事故という異常な状況下にいた人びと」(3点)

※本文の「異常な状況下」という既述に基づいた説明。

○「異常な状況下にいた」、またそれと同等と判断できる説明ができていれば○3点。

△説明が曖昧な場合は△1点。

B 「悲しみや絶望に打ちひしがれることもなく」(6点)

※本文の「少なくともそこには、悲しみや絶望に打ちひしがれることのない、状況と向き合って生きていこうとする力が息づいていたはずだ」という記述に基づく説明。「何も感じなかった」ということの内容。

△説明が曖昧であると判断される場合、本文の「悲劇を生きていたのではなく」を利用して回答は△2点。

C 「事態を的確に把握しようと努めていただけだ」(6点)

※本文の「刻々変わる状況を知覚し、それに合わせて行動していたとアランは考える」「人びとの現実の知覚はなんとか事態を的確に把握しようと努め」という記述に基づく説明。

- 「的確に」は「冷静に」「落ち着いて」「正しく」などでもよい。
△「的確に」に対応する説明を欠くなど、説明が曖昧な場合は△3点。

問六 (15点)

A ○7点

B ①

(模範解答例) 人間は他者による行為や出来事を客観的に捉えた時に初めてそれを悲劇と解釈できるが、その出来事の中で事実と向き合っている本人にそのような解釈は不可能であるから。

C ○5点

B ② ①+②=3点

各加点要素の加点の条件

★AとCとの対比が答案に示されているかどうかを吟味して採点する。対比がなくいずれか一方だけが示されている場合は、A 6点・C 4点とする。

A 「他者による行為や出来事を客観的に捉えた時」(7点)

※出来事を悲劇と認識できる場合の条件の説明。「他者による」はなくてもよい。

△説明が曖昧であるが、「客観的」という語が使っている場合、「客観的」に近い説明がなされていると判断される場合は△4点。さらに曖昧であるなら3点。

×全くズレている、あるいは説明がない場合は0点。

★の条件を踏まえて採点する。

B ①「それを悲劇と解釈できる」②「そのような解釈は不可能」(3点)

※解答例では、Bは①と②に分けて示しているが、答案中にBと同等の内容がまとめて示されているなら○3点。

△説明が曖昧な場合は△2点。

C 「出来事の中で事実と向き合っている本人」(5点)

※出来事を「悲劇」と捉えられない立場の説明。

○ほぼ同等の説明で、Aとの対比が明快と判断できる説明なら○5点。

△「悲劇の中にいる」と直面している」という説明、および説明が曖昧な場合は△2点。

★条件を踏まえて採点する。

問七 (18点)

A 4点

B 5点

(模範解答例) 過剰な不安や恐怖に襲われるような異常な状況下でも、人間はおのれを失うことなく現実を

C 4点

D 5点

知覚しようとする、自分の生きる力を信じて、なんとか希望や生命を見出すべきだということ。

各加点要素の加点の条件

A 「過剰な不安や恐怖に襲われるような異常な状況下」(4点)

※本文のタイトルニック号沈没事故に関わる「異常な状況下での異常な知覚であり異常な行動である」「思いがけぬ事態の出現に慌てふためき、とまどい、不安や恐怖に襲われもしただろう」「過剰な観念と過剰な感情」

といった記述をもとにして一般的にまとめた説明。「過剰な」はなくてもよい。

※「不安や恐怖」に2点、「異常な状況(事態)」「(困難な状況)」「思いがけない事態」などでもよい)に2点

△A全体に対応する説明が曖昧な場合は△2点。

B 「人間はおのれを失うことなく現実を」(5点)

※本文の「現実を生き、現実の世界のなかで現実の事物を相手に知覚し行動していた」「(困難な状況下でなお)

おのれを失うまいとする」といった記述をもとにした説明。

※「おのれ(自分)を失うことなく」3点、「現実を知覚しようとする」に2点。

C 「自分の生きる力を信じて」(4点)

※本文の「状況と向き合って生きていこうとする力」「人間の生きる力に思索のよりどころを見出そうとする」

「人間の生きる力に目を据えることがなにより大切だった」といった記述に基づく説明。

△説明が曖昧な場合は△2点。

D 「なんとか希望や生命を見出す」(5点)

本文の「重大故のなかに悲しみや絶望や不幸ではなく、なんとか希望や生命を見出す、アラン流のもの」の見方」から引き出された説明。「希望や生命を見出す」という内容は答案に不可欠。答案の中に正しく組み入れられていれば○5点。「希望」「生命」のいずれかを欠いている場合は△2点。

* 「べき・ねばならない・したい」といった、主張としてのまとめ方は不可欠で、それを欠いている場合は、答案全体から2点減点する。

二 (知識・漢字) (20点)

2点×10＝20点

- | | | | |
|---|---------------|---|------|
| a | まぬか(れ)・まぬが(れ) | b | はいきよ |
| c | じゅん(ずる) | d | く(い) |
| e | じょうじゆ | | |
| ア | 愛惜 | イ | 換言 |
| | | ウ | 思慕 |
| エ | 具現 | オ | 徒勞 |

三 古典 (90点)

問一

① イ ② エ

※解答どおり

問二 8点×2＝16点

【A】

A○6点

B○2点

(模範解答例)

夫に先立たれ

たこと

各加点要素の加点の条件

A 「夫に先立たれ」(6点)

※ 「たちおくれ」の訳

※ ・「夫に」「張尚書に」「張に」の有無は不問。

▲ 「ただし、夫・張(尚書)以外の人に」としている場合は▲1点減点。

○ 同意表現 「先に死なれ」「死なれ」「死に後れ」「死に遅れ」など。

○ 「先立たれてこの世に(一人)残され」のような内容を付け加えても可。

▲ 「夫が死んだ」「亡くなった」のように、主語が巧巧でなく夫(張尚書)となっているものは▲3点減点。

B 「たこと」(2点)

※ 「たること」の訳

× 「たる」の訳がないものは、B不可×0点。

× 「たる」に「した」「している」以外の訳をあてているものは、B不可×0点。

▲ 「たる」を存続とし、「していること」としているものは、▲1点減点。

▲ 「こと」のないものは▲1点減点。

【B】

A○4点

B

C○4点

(模範解答例)

いっそう

涙を増やす

きつかけ

各加点要素の加点の条件

A 「いっそう」(4点)

※ 「いごと」の訳

○ 同意表現 「ますます」「よりいっそう」「ますますいっそう」「さらに」などで○。

× 「いごと」を「いと」として「とても」「たいへん」「非常に」のように訳しているものは、A不可×0点。

B 「涙を増やす」(加点对象外。減点对象)

※ 「涙を添ふる」の訳

▲ 「涙を増やす」「涙を流す」「泣く」以外の意味にしかとれない表現にしている場合や、「涙を添ふる」を訳していない場合は2点減点。

C 「きっかけ」(4点)

※ 「つま」の訳

○ 同意表現 「端緒」「手がかり」「糸口」「形見」などで○4点。

▲ 単に「もの」としている場合は、▲3点減点。

× 「こと」としている場合は不可×0点

問三 8点

才

※解答どおり

問四 8点

たち || 「裁ち」と「立ち」

× 掛詞として「たち」が指摘できていないものは問四不可×0点

△ 「裁ち」と「立ち」のどちらか一方が出来ていれば△4点。

問五 8点

(模範解答例) 張尚書が亡くなってから、長い年月が経ったということ。

○ 「張尚書(張・夫)」が亡くなってからの長い年月の経過」という意味が表現できていれば可○。

△ 「白楊が柱とするのに堪えられる」「白楊が柱とすることができるほど大きい」という直訳のみの場合は▲7点減点で△1点。

△ 「白楊(木)の成長」は表現できているが、「長い年月の経過」を表現していないものは▲6点減点で△2点。

△ 「長い年月の経過」は表現できているが、それが張尚書の死と関係づけられていないものは▲5点減点で△3点。

争教二 紅粉不成 灰

※解答通り

×一か所でも誤りがある場合は×0点。

問七 18点

A○2点

(模範解答例) 漢詩では、

張尚書を失った悲しみを、

B○1点

冷たい寢床で明かす

C○6点

秋の長い夜が、独り身の自分にはいっそう長く感じられる

D

ということによって表現しているのに対し、

E○2点

和歌では

同じ悲しみを、夫と二人で見たときには美しく輝いて見えた月の光が、

F○3点

G○4点

一人で見る今はものさびしいものにしか見えない

H

ということでは表現している。

各加点要素の加点の条件

A 「張尚書を失った悲しみを」(2点)

※漢詩の表現する悲しみ

○ 「張尚書(夫)を失った」「張尚書(夫)の死による」「悲しみ(寂しさ)」という内容であれば可○。

B 「冷たい寢床で明かす」(1点)

○ 「寒さ」「冷たさ」に触れていれば可。

○ 冷たいのは「寢床」でも「夜」でも「霜」でもかまわない。

C 「秋の長い夜が独り身の自分にはいっそう長く感じられる」(6点)

○ 「秋の夜はもともと長いものだが、夫を亡くした自分だけがその長さを感じているように思われる」という内容でも可○。

▲ 「独り身の(夫を亡くした)自分(丐丐)」という内容のないものは▲2点減点。

▲ 「(自分には)夜が長く感じられる」「夜の長さを実感している」という内容のないものは▲3点減点。

▲ 「夜の長さ」に触れていても、それを自分が「感じている」という内容のないものは▲2点減点。

▲ 「秋の夜はもともと長いものである」という内容のないものは▲1点減点。

D 「ということによって表現している」(加点对象外。減点对象)

▲「〜と(いうこと)によって」表現している」「〜と言いついてる」「〜としてる」などの表現がないものは▲1点減点。

E 「同じ悲しみを」(2点)

※和歌の表現する悲しみ

○ 「その悲しみ」「張尚書(夫)を失った」「張尚書(夫)の死による」悲しみ(寂しさ)という内容で可○。

▲ 単に「悲しみ」「寂しさ」のように、その内容のないもの▲1点減点

F 「夫と見たときには美しく輝いて見えた月の光が」(3点)

○ 「生前の夫と見た時の月のすばらしさ」という内容で○。

G 「一人で見る今はものさびしいものにしか見えない」(4点)

○ 「夫がいない今一人で見る月の光に魅力が感じられない」という内容で○。

▲ 「今」という要素がないものは▲1点減点。

▲ 「一人で見てる」「夫が(そばに)いない」という内容がないものは▲2点減点。

H 「ということ表現している」(加点对象外。減点对象)

▲「〜と(いうこと)によって」表現している」「〜と言いついてる」「〜としてる」などの表現がないものは▲1点減点。

問八 4点×2＝8点

イ・オ (順不同)

※解答どおり

四 現代文 (100点)

問一 20点

A〇2点

B〇6点

(模範解答例)

娘のせいで身体のバランスを失いかけている 彼女の姿勢よりも表情に関心を抱いているにも

C〇4点

D〇6点

E〇2点

かかわらず、確認することができない「私」のもどかしさを暗示する 効果をもたらしている。

各加点要素の加点の条件

A 「娘のせいで身体のバランスを失いかけている」(2点)

○ 「娘に引つ張られてのけぞらないようにバランスを取る」のような表現でも可○。

B 「彼女の姿勢よりも表情に関心を抱いているにもかかわらず」(6点)

○ 「姿勢」は、「身体の動き」のような表現でも可○。

C 「確認することができない」(4点)

○ 「蔭になって見えない」のような表現でも可○。

D 「私」のもどかしさを暗示する」(6点)

○ 「残念な気持ちを表現している」のような表現でも可○。

E 「効果をもたらしている」(2点)

○ 「：効果。」で終わっていても可○。

問二 15点

A〇5点

B〇2点

(模範解答例)

彼女が母親となり夫と離婚したことを知らされたため、彼女が兄や「私」と一緒に砂の城を

C〇5点

D〇3点

つくった 思い出の詰まった海を遠ざけていたことは、話題にしたくなかったから。

各加点要素の加点の条件

A 「彼女が母親となり夫と離婚したことを知らされたため」(5点)

▲ 「知らされたため」という指摘がなければ▲2点減点。

▲ 母親となったという指摘がなければ▲1点減点。

B 「彼女が兄や「私」と一緒に砂の城をつくった」(2点)

▲ 兄や「私」と一緒にということが抜けている場合、▲1点減点

C 「思い出の詰まった海を遠ざけていたこと」(5点)

▲ 「思い出の場所だった海」のように、海を遠ざけていたことのヌケは▲3点減点。

▲ 「海を避けていたこと」のように、海が思い出の場所であったことのヌケは▲2点減点。

D 「話題にしたくなかったから」(3点)

○ 「発言することははばかられた」「言にくかった」のような表現でも可○。

問三 25点

A 〇2点

B 〇5点

(模範解答例)

まず、海辺で貝殻を拾う娘の様子を描き、次に娘を心配して見守る彼女が、なぜ娘が貝殻に興味を持つようになったかを「私」に語る言葉を伝える。そのときの「あの頃」という言葉

C 〇5点

から、「私」は思春期を迎えた彼女が貝殻を集めていたときのことを思い出し、さらに現在のD 〇3点

E 〇8点

彼女の指先に目を転じていく様子が示される。以上のように、描写は娘と彼女の間、現在と

F 〇2点

過去の間を行き来し、それに対する「私」の心境が加えられている。

各加点要素の加点の条件

A 「海辺で貝殻を拾う娘の様子を描き」(2点)

B 「娘を心配して見守る彼女が、なぜ娘が貝殻に興味を持つようになったかを「私」に語る言葉を伝える」(5点)

△ 「母親は私に娘がなぜ貝殻に興味をもったかを話し」は△3点

△ 単に「見守る彼女」は△1点

△ 「彼女から「私」への語りかけ」は△1点

C 「あの頃」という言葉から、「私」は思春期を迎えた彼女が貝殻を集めていたことを思い出し」(5点)

△ 「私」による彼女の回想」は△1点

△ 「私」が過去へと思いを馳せて考える」は△3点

D 「現在の彼女の指先に目を転じていく様子が示される」(3点)

△ 「彼女の成長を思い出している」は△2点

E 「描写は娘と彼女の間、現在と過去の間を行き来し、」(8点)

○ 「娘と彼女、現在と過去が対比されて描かれている」や「会話をしている人物や描かれている時間軸がめまぐるしく変化している」のような表現も可○。

F 「それに対する「私」の心境が加えられている。」(2点)

○ 「過去に思いが向けられる」のような表現も可○。

問四 15点

A 〇3点

B 〇6点

(模範解答例)

少女時代の彼女が自分の作った砂の城に対して、満ち潮で崩壊するのを遠くから眺めるのも

C 〇6点

楽しみのひとつだと告げて、完成した姿にこだわらない態度を示す部分に現れている。

各加点要素の加点の条件

A 「少女時代の彼女が自分の作った砂の城に対し」(3点)

B 「満ち潮で崩壊するのを遠くから眺めるのも楽しみのひとつだと告げて」(6点)

※引用の「」はなくても可

C 「完成した姿にこだわらない態度を示す部分に現れている」(6点)

問五 25点

A〇5点

(模範解答例) 「私」は幼い娘に対して、まるで父親のような愛情をもって接しているが、娘は母親である

B〇5点

C〇5点

彼女の幼い頃の思い出を呼び起こす媒介の役割をも果たしている。姪っ子のように大切に思っていた

D〇5点

E〇5点

彼女が、砂の城をつくることに熱中していた頃に対する 懐旧の念が「私」の心を占めている。

各加点要素の加点の条件

A 「私」は幼い娘に対して、まるで父親のような愛情をもって接している」(5点)

B 「娘は母親である彼女の幼い頃の思い出を呼び起こす媒介の役割をも果たしている」(5点)

○「…彼女の姿をその娘に重ねている」「…娘に、母親である彼女に似ている部分を見出している」のような表現でも可○。

C 「姪っ子のように大切に思っていた彼女が、」(5点)

D 「砂の城をつくる」ことに熱中していた頃に対する」(5点)

E 「懐旧の念が「私」の心を占めている」(5点)

○「過去を懐かしく思っている」のような表現も可○。